

# 運送業界の健康支援を生きがいに

## 137 職業寿命を延ばす認知症対策



またもや「87歳ドライバーによる運転で男児が死亡」という、高齢者が引き起こす悲惨な交通事故のニュースが飛び込んできました。10月28日に横浜市で起きたこの事故により、再び「高齢者の運転免許制度のあり方」を先送りできない難題として社会全体が突き付けられたと思います。

この男性は前日から丸一日運転していたこと、「どうやって行ったか覚えていない」と供述しており、認知症の疑いも濃厚ですが、認知症の初期症状には「家事などは普通に出来る」とのこと、「わかりにくい」とも発見が遅れる要因の一つになっていると思われる。しかし、警察庁の推計では75歳以上の免許保持者430万人の6%〜16%は認知症ということですから、もう決して人ごとではあ

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》  
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)  
副理事長 作本 貞子  
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表  
国土交通省健康起因事故対策協議会委員  
TEL : 06-6965-3666  
FAX : 06-6965-5261  
東京オフィス TEL : 03-3295-1271  
E-mail sakumoto@ochis-net.com  
HP http://sas.ochis-net.jp/

りませぬ。  
■職業ドライバー寿命は何歳？  
運転業務に不可欠な、視力、聴力、集中力などは、いくら個人差があると言っても確実に落ちていきます。運輸業の場合は、いくら人材不足に悩まされているといえども、クリアすべき年齢などの条件は一般ドライバーよりはるかに高いものでなければなりません。

先日、あるタクシー会社で、「うちは80歳ドライバーもいましたよ」という話を大変濃厚そうなお聞きしたので、社長からお聞きしたのですが、思わず「社長、ちょっと乗客の身にもなって経営してくださいよ」と言いたくなってしまいました。いかにも「いつまでも現役で働きたい」という本人

の意向を聞き入れた、社長の大変美談な話に聞こえますが、いったん事故を起こしてしまつと、まじめで働き者の運転者はたちまち犯罪人になってしまいい、やさしい社員思いの社長は、社会からたちまち厳しく管理責任と、そのモラルさえも問われることになるのですから。

■軽度では回復できる  
さて、ここで朗報です。認知症はなってしまえば、社会に及ぼす影響への大きさなどから確かに厄介な病気ではあります。が、初期である軽度認知障害(MCI)のレベルでは回復の余地があるとされています。生活習慣病と同様に、多くの場合40、50歳からその兆候が現れやすいため、認知症は早期発見が決め手となります。早めに回復に努めることで、何よりも職業寿命の延伸につながります。

このたび OCHIS では「イキキ健康管理で事故防止」プロジェクトの11枚目として、「運転業務を守る認知症対策」をリリースしました。ぜひHPでご覧いただき、事故防止対策にご活用ください。

(今回は12月12日号に掲載)